

平成 29 年度 第 2 回岡山県文化振興審議会【要旨】

日時：平成 29 年 8 月 23 日（水）

10 時～11 時 30 分

場所：ルネスホール ワークルーム

1 開会

環境文化部長あいさつ

2 議題

新おかやま文化振興ビジョン（仮称）の策定について

委 員

- ・ビジョンはよくまとまっている。
- ・「岡山独自の文化発信」の項目ができたことは良いことで、ここに本県出身者の郷土愛を高めますという一文が入ったことに意味がある。郷土愛を有している本県出身者を文化サポーターの中へ積極的に取り入れるというよう一文が追加されたらさらによい。
- ・「ユネスコ無形文化遺産登録」は、例えば「先人顕彰の推進」などに書きぶりを合わせて、遺産登録への支援、遺産登録との連携などに変えた方が良い。

委 員

- ・「文化発信をしながら愛着心と誇りを持てる岡山」は、この中の施策の方向性、重点施策によって十分裏付けられているかどうか疑問だ。むしろ、「郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実」、「伝統芸能・伝統工芸などの保存・継承・発展」、「郷土の誇る先人顕彰の推進」などが、愛着心と誇りを持てる岡山の中の施策となるべきではないのか。この辺りを整理して、重点施策の組み換えが若干必要ではないか。
- ・施策の方向性や重点施策をこのままでいくとすれば、「文化発信をしながら交流を広げる岡山」と表現した方が施策にはふさわしいと思う。
- ・愛着心と誇りを持てる岡山にするのは非常に大事なことだ。

委 員

- ・「郷土の誇る先人顕彰」の人物像には、雪舟や浦上玉堂などに焦点を合わせてはどうか。
- ・文化基本条例附属の「若者への手紙」は、若者以上に先生方にぜひ読んでもらいたい。
- ・障害の害の字は、別の漢字を使うか、ひらがなにするなどを検討してほしい。

委員

- ・アートこそ色々な障害にかかわっていく手段であると確信して活動をしてきたが、障害者アートというものに焦点を当てるとということが逆にその言葉が支障にならないか懸念している。
- ・ダイバーシティの概念で、表層に表れる格差の中に年齢とか性別とか障害とかあるが、多様性の中に文化や芸術がどうフラットに関わっていくかという研究が進んでいるので、オリンピック・パラリンピックを契機として障害者アートを考えるのであれば、もう少し広げることも考えられる。
- ・5年後が危ぶまれる市町村がある中、10年後に祭りとか継承文化がどうなるだろうという不安がある。そういった意味で継承・発展、人材育成などに、もう少し踏み込んでいいのではないか。

委員

- ・すでに絶滅危機に陥っている文化伝承のかたちがあって、そこへ、どうみんなが協力するか、協力して良いのか悪いのか、自然消滅するのに任せばいいのか、どう取り組むかということは難しいが、大きな問題として意識しなければいけない。

委員

- ・伝統文化の保存に対して行政が口を出さずに支援をするということまで踏み込んでほしい。民間を大事にしながら民族芸能、伝統工芸など、或いは吉備の国文化遺産などの保存をしていくという姿勢が出てくればよい。

委員

- ・「岡山ゆかりの人物や文化財をわかりやすく紹介するガイドブックの作成及び普及」については、過去10年間でかなりできていると思うので、もう少し具体的なこと、さらに踏み込んだ文言とか、ビジョンがあっても良いのではないか。
- ・「おかやま文化芸術アソシエイツ」について、こういった組織が具体的に何をしているかが県民によくわかって、文化団体以外の例えば伝統芸能を保存しようとしている人達でもサポートを受けられるような、そういった機能が持ち得るものなのかどうか。
- ・10年間のスパンのビジョンなので、アソシエイツは3年経ったら終わりましたということではなく、国の補助が無くなっても何かの形でこういった組織、機能が継続できる体制こそが本当の体制づくりだと思うので、国の補助に頼らずにどうやっていくのかを、体制づくりとして考えてほしい。

委員

- ・「郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実」というのは、もう少し具体的に

たほうがよい。ガイドブックだけではなくて、文化財、或いは文化活動に関するアーカイブスというような言葉を入れることが必要だ。映像や出版がいかにかにファイリングされるかで文化度が図られる。

- ・ガイドブックに限定するから旧態依然ととられる。若い人達は我々が考える以上にネット情報で動いているので、今の時代、文化情報がネットでアクセスされるかどうか分からないが、今の時代、ガイドブック、アーカイブス或いはネットマップとか、そういう言葉を掲げてはどうか。

委員

- ・各市町村のホームページの中に、地元の文化マップとか、歴史をキッチリ書き込むということは、特にやって頂きたい。

委員

- ・基本目標は一時流行った文化立県とか、文化県づくりとか、文化県「おかやま」とかそういう言葉ではなくて別なやわらかい言葉を考えているのか。
- ・基本目標は我々も十分に考えていきたい。ここは大事なことなので期待している。

委員

- ・文化、歴史に対してもっと尊重し、興味を持つ、そういう文化的歴史的風土をつくっていくことは県の重要な目標ではないか。活動するのは民間かも知れないけど、そういう風土づくりみたいなことを新しい文章の中に入れてはどうか。
- ・「県民が文化に親しむ環境づくり」とあるが、確かに「環境づくり」もあるが、歴史や郷土の歴史文化に親しみをもつような、県民の意識改革というのも一つどこかに入れてはどうか。

委員

- ・「将来の地域文化の担い手育成」では、世代を超えて伝えられるような教養的な文化が根付いたらいいと思うので、文章の順番で、「郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実」が一般論としてあって、学校教育や教員や子供やという風に繋がった方が良くもしいない。

委員

- ・岡山県に I 氏賞があるのだから、その I 氏賞を受けた人達が発表する場、挑戦する機会の提供など、若手の芸術家の支援を I 氏賞をベースにやっていると、岡山県への芸術家の関わりが変わるのではないか。文化の継承も大事だが、創造クリエイションに挑戦する人への支援をどの部分が担うかというのもあるが、トライアンドエラーでまずはやってみるのが非常に大事だ。